

西 邑 楽 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② (平成26年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目	①	②	総 合			
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。	A	A	A	数学・英語の習熟度別授業の満足度は約84%である。昨年度よりも満足度は高くなったが、さらに工夫の余地がある。 専門学科の授業については98%を超える生徒が満足していると考えている。	各科目ともに充実した授業が実施されており、生徒からの満足度も高いことは評価できる。特に、スポーツ科が取り組んでいる地域の小学校との連携授業などの体験授業は大きな成果を上げており、今後も継続してほしい。 アンケート結果に加え、授業観察や生徒会本部役員との懇談等からも、生徒が充実した学校生活を送っていることがよくわかる。	数学、英語の習熟度別少人数制授業やスポーツ科、芸術科の専門科目において、効果的な指導について教科内での見直しを行い、さらに内容を充実させる。 P D C A サイクルに基づいた自己評価を行い、教師の指導力の向上に努める。 生徒が学校生活の様々な場面で自己肯定感を感じられるよう支援していく。
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が「本年度の重点目標」、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。	B	B	B	本年度の重点項目をもとに設定した自己目標の実現に向けて各教員が努力し、適切な自己評価を行うことができた。今後さらに組織的な改善に努めたい。		
	3 生徒の信頼に応える指導を基本とする。	・自分の学校を好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	A	A	A	生徒が充実した学校生活を送ることができるよう授業・特別活動に力を入れ、支援をした。		
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができてきているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が10名以下、遅刻指導該当者が年間15名以下である。	A	A	A	登校時指導等を通じて、あいさつ・服装ができてきている。という評価が約92%であった。 また、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒数及び遅刻指導該当者数についても目標を達成できた。	昨年度に比べ、問題行動や事故等が減少するなど、生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせるための取組が成果をあげている。今後も計画的な指導をお願いしたい。	生徒指導については、職員全体での情報共有に努め、共通理解に基づいた組織的かつ計画的な指導を継続して実施する。
	5 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。	A	A	A	過失事故や重大事故は0(足の骨折1)で、目標を達成できた。		
	6 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・体育祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A	体育祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒の割合は約91%となり、目標を達成できた。		
	7 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	部活動に加入している生徒が部活動の内容に満足している割合は下半期は約65%となり、やや目標を下回った。		
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	8 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人ひとりに対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	B	B	B	研究授業や授業アンケートを活用して授業改善を進めている。生徒の授業に対する満足度は昨年に比べ改善しているものの十分とはいえない。今後、さらに授業を工夫していく必要がある。	授業改善を通して、教職員は生徒の進路実現に向けて前向きに取り組んでいる。今後、これまで以上に人間関係形成力やコミュニケーション能力が重要となるので充実に取り組んでほしい。 家庭学習時間が目標を下回っている。課題を明確化し、改善策を検討する必要がある。	授業改善に関して教科内での研修をより充実させるとともに、全職員の意識と教科指導力の向上を図る。授業アンケートの結果を効果的に活用し、生徒が生き生きと参加できる授業を目指す。 学習意欲を高めるため、教務部と進路指導部が連携して進路や科目選択のためのガイダンスを充実させる。教科においても授業内容や課題の出し方を工夫していく。
	9 授業時間を確保する。また、授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1・2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級30名以上である。	C	C	C	課題提出はきちんとできるが、自主的に学習する意欲に乏しい生徒が多い。週末課題を課してきたが家庭学習時間の増加にあまりつながっていない。 予習・復習の徹底や授業内容の見直し等を各教科で進めていく。		
	10 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。	B	B	B	図書館オリエンテーション・POPコンクール・図書講演会・LHR読書会などの行事をとし読書推進の広報活動を工夫して実施できた。		
IV 生徒に進路目標を達成させる。	11 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。	A	A	A	80%以上の生徒が進路を考える際に二者、三者面談や進路学習、進路行事が役に立っていると答えている。	進路指導に関するそれぞれの取組について適切であると考え。更に工夫を重ね、生徒の進路実現を援助してほしい。 キャリア教育の視点から、今後のグローバル化社会に対応した国際感覚を育成するために、国際交流活動等を充実させてほしい。	3年間を体系的に捉えた進路学習プログラムづくりを継続し、進路実現のための進路指導・進路行事のさらなる充実を図る。 国際交流活動等について英語科と協力し、実現に向けて検討していく。
	12 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した体系的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。	B	B	B	今年度の進路計画が、進路意識の向上につながったものと評価できる。今後、将来の目標が自発的学習に結びつくような指導を工夫する。		
V 生徒の心身ともに健康で安全な生活が送れるように	13 生徒自ら健康の保持増進に努める姿勢確立のため自己管理に関する指導を進める。	・生徒の健康診断に基づく受診率50%以上である。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。	B	B	B	生徒の健康診断に基づく受診率は、前年よりやや向上した。 熱中症・インフルエンザ予防対策は適切に行われた。	健康診断に基づく受診率の数値目標が低い。学校として目指すべき目標の観点から検討してほしい。 生徒相談等の組織的な取組について評価できる。今後は、未然防止の観点からのいじめや不登校に対する取組を更に充実させてほしい。	健康診断に基づく受診率の数値目標を見直して、生徒のさらなる健康増進の方向へ進んでいく。 いじめや不登校に関しては、出来るだけ、初期の段階でうまく対応していくように工夫をする。
	14 心身の健康問題を抱える生徒への適切な対応や指導を行う。	・不登校の生徒0を目指す。 ・いじめの未然防止に努め、いじめの問題解決率100%を目指す。	B	B	B	不登校の生徒は、0ではなかったが、十分な対応ができた。また、いじめ問題は、組織的な取り組みで、問題は、発生しなかった。		
	15 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。	B	B	B	教室等の学習環境のさらなる改善に取り組む必要があるが、清掃状況は、改善されてきている。		
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	16 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・P T A 総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。	B	B	B	東毛地区及び邑楽館林地区のP T A 幹事校として活動に取り組むことができた。今後はP T A 総会等の出席者を増やすために、内容を精選し広報に努める。	ボランティア活動の充実に取り組み、地域社会とのつながりの大切さを学ばせてほしい。 これまで以上に地域に信頼される学校となるために、小中学校や地域との交流活動に積極的に取り組んでほしい。	地域社会から信頼される学校となるために、地域や家庭との連携のもと、ボランティア活動の充実に取り組む。 Webページ等の充実を通して、家庭や地域へ、本校の取組についての情報発信に努める。 授業力向上や生徒相談に係る職員研修の充実を図り、教職員の資質向上に向け、継続的に取り組む。
	17 webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のwebページを月2回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。	A	A	A	学校のホームページは定期的に更新し、各科の取組等の情報を発信した。オープンスクールの参加者の満足度は高かった。		
	18 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。	B	B	B	服務規律に関する啓発や授業力向上・生徒相談に係る職員研修等を実施することができた。また、教科別の研究授業を実施した。		